

今回は文章を書いたり、人に説明したりする際に、つい使ってしまうようなことについての記事で、いつもの薬の方の話題ではありません。

“こと” と “のほう” に関して

1) “こと” ということ

何気なく会話や文章で“こと”という言葉を使っていないだろうか？例えば、①これは大変なことになった。②旅行のことは私に任せて。③彼女の美しい姿をもう見ることができない。④君は山登りをしたことがないのか！⑤この薬剤では癌の進行を止めることができない等など枚挙にいとまがありません。これらがたまたま文章の中に出ている分には気になりませんが、“今週、君が言ったことと、先週の議会での答弁で言ったこととが、全く矛盾しているということに気づかないということは、君の愚鈍さを証明したことに他ならない”と一つの文章の中にいくつも“こと”が出てくると何か変？な感じがします。私はこれを“ことこと言葉”と呼んで、文章を書く際に自らを律しています。

昔、書いた文章を添削してもらった時に、“こと”の表現があまりに多過ぎますと指摘されたこと（経験）がありました。確かに、文章を見返してみると“こと”のオンパレード状態で、客観的に見ると読みづらいし、何となくぼかした表現となって雰囲気も悪い。“こと”も結局は代名詞の1つなので具体的に何かを明確にしておいた方が良いと思ったものです。しかし、いざ直してみようと思うと、何だか硬苦しい表現にもなります。適度に“こと”を散らばせるのも一つの手法なのだと思います。

手元にある国語辞典で“こと”を調べると、事；1) 人間が経験・想像する対象のうちで、時間の推移と共に変化して行くと考えられるもの。又はその変化の過程。2) 人間の行為の一コマ。3) 人を表わす名詞に伴って・・・に関して言うならば。とありました。何だか解説すると分かりにくいですが、事例も書いてあったので、なるほどと納得しました。

ところで、件の“こと”を変換してみると、①これは大変な事態になった。②旅行に関する問題は私に任せて。③彼女の美しい姿をもう見られない。④君は山登りをした経験がないのか！⑤この薬剤ではがんの進行を止められない。単純に変換できる①、④のようなものもあれば、②のように文章をある程度継ぎ足さないとだめなものもあります。③や⑤のように、ことができないという不可能を含むパターンは“○○られない”で置き換えられそうです。

2) “のほう” 言葉

昔、勤務していた薬局で接遇研修の講師から“のほう”言葉の多用は聞き苦しいという話がありました。例えば、①展示室の方は2階の方になりますので、こちらの方からお入り下さい。②今回の宴会の会計の方は私共の方で清算させていただきます。③ピンク色の錠剤の方は下剤の方になりますので、別の薬袋の方に入れさせていただきます等など。こちらは話し言葉でよく使われるようで、何かの代名詞という雰囲気ではなく、クッション言葉に近いものかもしれません。

日本人は心理的に断定した言い方になるのを嫌う傾向があるのか、婉曲な言い回し方の1つとして“の方”言葉を多用してしまうこと(場合)があるようです。“の方”は、方角を意味しており、多少の拡がりを持たせた表現となり、ある場所を明確に示す印象を曖昧にした表現と言えます。

“の方”を省いてみると、①展示室は2階になりますので、こちらからお入りください。②今回の宴会の会計は私共で清算させていただきます。③ピンク色の錠剤は下剤になりますので、別の薬袋に入れさせていただきます。となり、書き言葉で見ると何の違和感もありません。しかし、1つ位入れておくとし言葉としては婉曲な表現で良いのかもしれませんが。(終わり)